



発行日：平成26年1月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第5回山の地域部会を開催しました！

1月27日（月曜日）に第5回山の地域部会が開催されました。今回の地域部会では、今年度、山部会が取り組んできた活動成果を報告するとともに、来年度の山部会の活動について話し合いました。



日時：平成26年1月27日（月）10:30～17:10
場所：岡崎市 めかた会館
参加者：38名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 今年度の山部会の活動成果報告



今年度の山部会の活動成果報告として、山部会の目標と課題解決のための活動テーマについてふりかえりました。特に、「山村再生担い手づくり」、「山村ミーティング」、「森づくりガイドライン」、「木づかいガイドライン」の4つのテーマについての内容を情報共有しました。

そのうえで、今年度全7回のWGを実施した内容について概観したうえで、各テーマごとに次のように進捗したことを確認しました。

各テーマの主な進捗の状況

- **山村再生担い手づくり**：山村で活動する団体への取材が実施できた。また、取材を通じて他部会との連携が実現した。
- **山村ミーティング**：今年度はWG化はしない方向としつつも、関連する他団体の活動などの情報共有ができた。
- **森づくりガイドライン**：森づくりガイドラインをよりよく理解するための「矢作川流域圏の森づくり」が行われ、メンバー間で情報共有が図られた。
- **木づかいガイドライン**：ガイドラインの作成目的が共有化され、参加メンバーそれぞれの木への想いについて幅広く意見交換ができた。



2. 来年度の山部会の活動について



来年度の活動として、まず今年度行ってきた活動の到達点を確認しました。また、3年で1サイクルする流域圏懇談会での活動成果（残りの2か年）について意見交換を行ったうえで、他部会との連携についての意見交換をするとともに、活動の運営方法や体制についてのアイデアなども意見交換されました。

山部会の活動としては、地域部会を含めて8回ぐらいを想定し、今年度同様に長野県域、岐阜県域、豊田市域、岡崎市域で各2回ずつやっていくことをメンバー間で共有しました。意見交換の詳しい内容は裏面をご参照ください。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度の山部会の活動成果報告について

活動の成果報告については次のような意見が出されました。多くの意見が出たため、今回の資料の修正版については、座長である蔵治先生に一任することで、内容について合意されました。

○活動の成果報告についてのご意見

- ・活動成果と資料に記載があるが、3か年を1サイクルととらえた際、今年度はその1年目に過ぎないため、成果ということで評価されることは必ずしも適切でない。(蔵治)
- ・森づくりガイドラインについては岐阜県、長野県の各出先事務所と恵那市へ趣旨説明に行っておりその点を修正する必要がある。(蔵治)
- ・活動の進捗状況についての評価があるが表現について検討できないか。(蔵治)
 - ▶ 評価については定性的に「言葉」で書くことがよい。達成できたこと、今後課題として話し合いを進めることなど分かるように書いておくことが重要。(山本)
- ・今年度WGで活動しているテーマについては、林業が生業として成り立つようになればすべて解決できることだと思う。(星野)
- ・活動については、山に入らなければ今の山の状況について、本当のところはわからないと思う。都市部の方々にもぜひ山の中に入れていただいて知ってもらいたい。施策なども考えてもらう必要がある。(鈴木)
- ・山村ミーティングについては、すでにある団体のうち、実際に山村で動いている団体が多くある。彼らの活動の成果を流域圏全体としてリンクさせることがよいと思っている。こうしたリンクをどんどん増やしていくことが重要であり、そのような意味では、今後は、今ある個別の団体が持つ活動成果と流域圏とのリンクを強くしていければよいと思う。(山本)
- ・矢作川流域圏懇談会にもっと吸引力がほしい。行かなきゃ損だと思わせてほしい。来年度はさらにながらもうと思えるような機運の盛り上がりがあるとよい。(黒田)
- ・今日、この岡崎の場でこれだけの方が出てきたことは大変良かった。山の重要性を多くの人に知ってもらいたい、伝えるということは時間がかかる。地元も含めてもっといろいろな方々に知ってもらうことが重要だと考えている。(沖)



●来年度の活動について

来年度の活動として、興味のある活動内容や運営についてのアイデア、体制について次のような意見が出されました。山部会の活動としては、地域部会を含めて8回を想定し、今年度同様に長野県域、岐阜県域、豊田市域、岡崎市域で各2回ずつやっていくこととなりました。

- ・土木工事に地域材を使う事例を知っている。東海豪雨の際に木工沈床がもちこたえたような話もあるなかで、川の工事について山部会のテーマである木づかいという面で連携するようなことも面白い。現場見学会の企画を通じて実現できるとよい。(洲崎)
- ・WGの回数が多くなると負担が大きくなり大変なので、他部会と連携する際は、WGの回数に計上して対応するなど負担が増えないようにすることがよい。(洲崎)
- ・山村ミーティングはぜひ来年度やっていければよい。山の担い手以外にも農業に従事する若者なども含めて、山村にいる若い方が計画・企画した活動を流域圏で展開できるとよい。(山本)
- ・矢作川流域の森づくりについて、これまでの森づくりの実績や優れた事例などを含めて、川・海・都市住民の方々にも知ってもらいたい。その際は印刷費のような一定の経費がかかるなど一定の課題があることも共有しておく必要がある。(蔵治)
- ・大手の企業と連携して森づくりをおこなっていく例もあるのでその可能性についても考えてはどうか。(鈴木)
- ・山部会としての目標達成に向けたロードマップのようなものがあるとよい。(安藤)



ふりかえり：会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



よかったと思うこと：額田林研の方々に参加されて勉強になりました。/マップが大変よくできていた。林業グラフの方の意見は良かった。/地図を拡大した物を貼り出してくれたので見やすかった。

よくなかったと思うこと：地域部会は、もう少し前向きな議論が欲しかった。/未だ途中のWGなので”○”、“×”は、まずかっと思ふ。これから行うところもあるので、“予定あり”、“策定中”もしくは言葉で示すようにしたことによればよかったと思います。

今後のスケジュール(予定)と情報提供



矢作川流域圏懇談会全体会議は2月28日(金)に開催します。ぜひご参加ください。

